国指定史跡

古津八幡山遺跡 歴史の広場

弥生の丘展示館 ガイドブック No.5

（イラスト編）

弥生の丘展示館 ガイドブック No.5

（イラスト編）

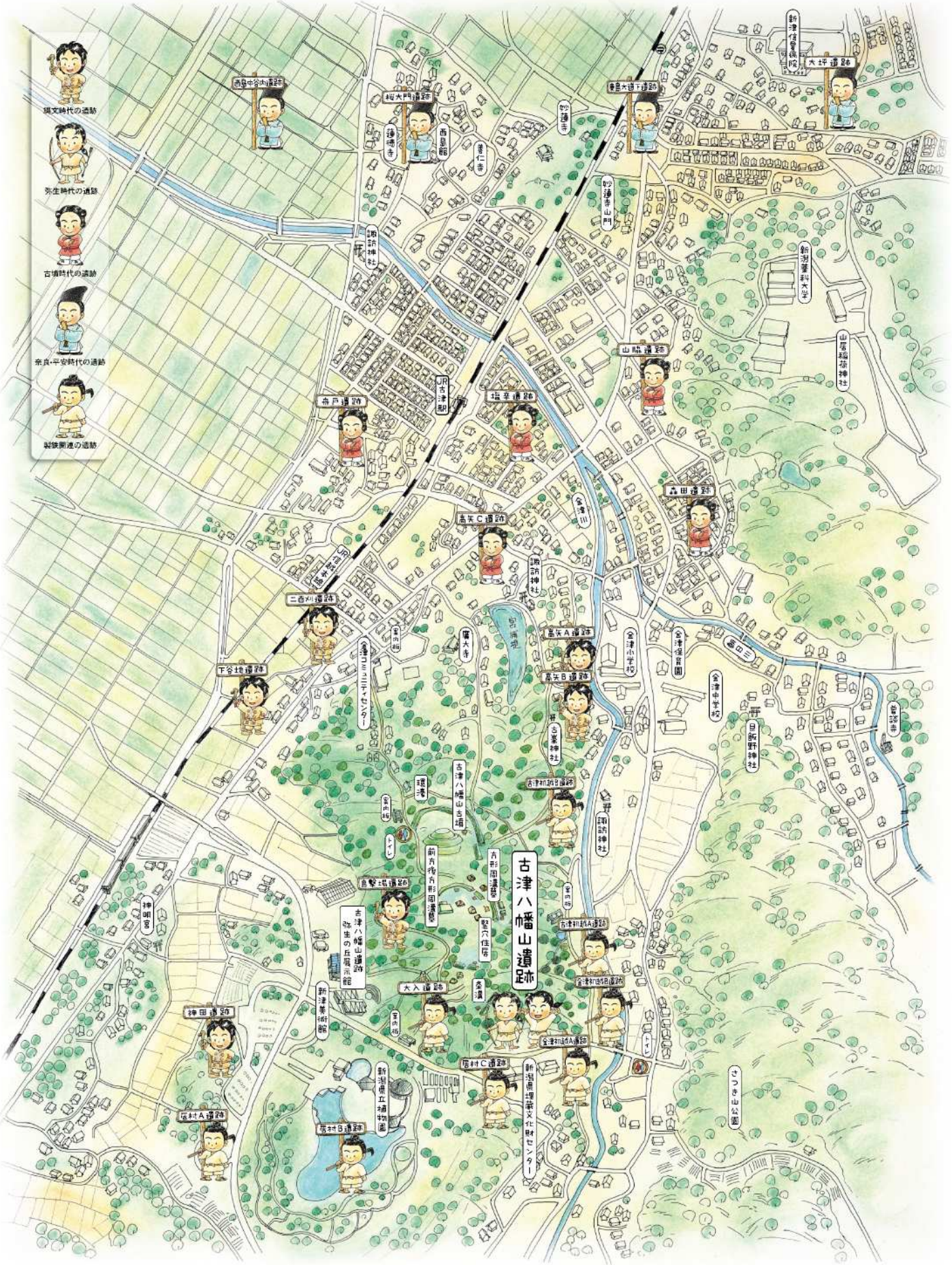
【発　行】
平成25(2013)年3月

【編集・発行】
新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748-1
TEL 025-378-0480　FAX 025-378-0484
Email: bunkazai@city.niigata.lg.jp

【印刷・製本】
株式会社 ハイングラフ
〒950-2022 新潟県新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025-233-0321　FAX025-233-0322

北東上空から見た古津八幡山遺跡

古津八幡山遺跡周辺イラストマップ



このガイドブックのイラストは史跡古津八幡山 弥生の丘展示館のために考古イラストレーター早川和子さんに描いていただいたものです。

蒲原の夜明け ～旧石器・縄文時代～

土器を発明した縄文人。土器を用いた煮炊きによって、ドングリなどの灰汁抜きや、お年寄り・子供にも消化の良い栄養のある食事が、できるようになりました。

ウサギや魚、貝なども捕っていました。森では鹿を追っています。
狩りがうまくいくとよいですね。
平野には、潟や湿地が広がり、小さなムラが見えます。

縄文時代後期（約 4000 年前）

「あんたたち、お帰り！！」
狩りから帰って来たお父さんや息子を迎えて喜ぶお母さんや娘たち。本当に無事に帰ってきてよかったですね。

春になると、ワラビやゼンマイをたくさん採って灰汁抜きをします。乾燥させて長い冬に備えます。川で魚やタニシを捕ってきた子供たちもいます。

縄文時代後期（約 4000 年前）

邪馬台国のころの古津八幡山 ～弥生時代～

米づくりには不便な丘の上のムラ、ムラは濠や土塁で囲まれています。米づくりが始まると、農作業を共同で行うために、人々は集まってムラをつくりました。それまでよりも安定して食料が得られるようになり、蓄えもできました。しかし今度はその蓄えの奪い合いなどから、他のムラとの争いが起きるようになりました。

弥生時代後期（約 1900 年前）

「親方！皆を掘る者、運ぶ者、踏みかためる者に振り分けておいだよ」
「よしよし、子供らもようぉ働いているようらなぁ。この分だとあと 10 日くれぇらなぁ」

「次の満月には完成を祝ぉて祭りをやろうてば」
「ははっ！皆も楽しみにしてるっさあ」
と一層結びつきを強めるムラ人たちでした。

弥生時代後期（約 1900 年前）

「この干し魚でダシをとろうか」
「いくさになる前に、沢山の矢尻をつくっておかんとらねぇ」
「あれ、だっか来たがみたい。頼まれとった糸、まだ紡ぎ終わっとらんがに、早よとんにきたがけぇ」

「うんめぇウリだべ、よかったらあがらんしょ」
「おや　ほんに旨そうらのぉ、したら、お米をちっと持って行くけぇ」

弥生時代後期(約 1900 年前)

四角い墓とムラ長 ～弥生時代～

ムラのはずれで始まったムラ長の葬儀。次のムラ長が鹿角の把で飾った剣を副えようとしています。棺の中には弓矢も見えます。死んだムラ長は勇敢な戦士だったのでしょうか。それを見守るのは家族や各地から集まった人たちです。墓のまわりには酒や食べ物が入った壺や深鍋が供えられています。

弥生時代後期(約 1900 年前)

丘の頂きに集うムラ人。青白い月の光に浮かび上がる大きな墓の前で、
人々のかけ声と手の拍子に合わせ舞い踊る鳥の姿の巫女。
秋の収穫前で、意外と食料の少ないこの時期、ムラ人の一層の団結と
健やかなることを願い、祖先の偉大なムラ長に心から祈りを捧げています。
弥生時代終末期（約 1750 年前）

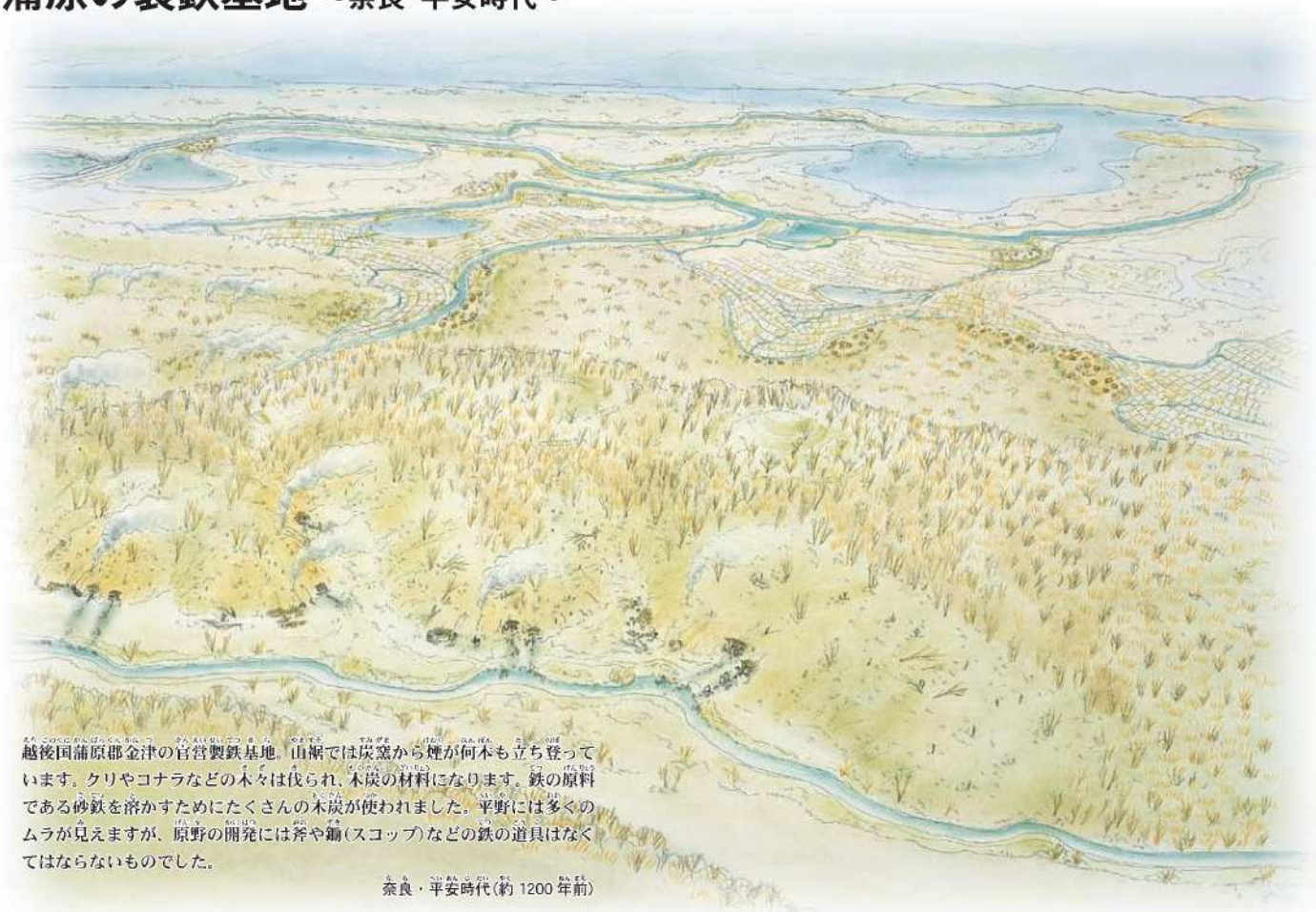
蒲原の王墓 ～古墳時代～

争い事が収まると、ムラ人は丘の上から麓に住まいを移しました。
この地域を治めた豪族が住む屋敷（居館）がムラの一画にあります。
ここで、政治・経済・軍事・宗教などの活動が行われました。かつて
ムラがあった丘の先端には土を盛り上げた大きな墓（古墳）が築かれ
ています。
古墳時代前期（約 1600 年前）

古墳をつくるには、設計や土木工事など高度な技術が必要とされました。また、多くの人々が長い期間働かなければなりませんでした。収穫祭が終わると、王のために一致団結して古墳づくりを進めます。周辺のムラからやってきた人々は濠を掘っています。そして、その土砂を設計図どおりに一生懸命に運んでいます。

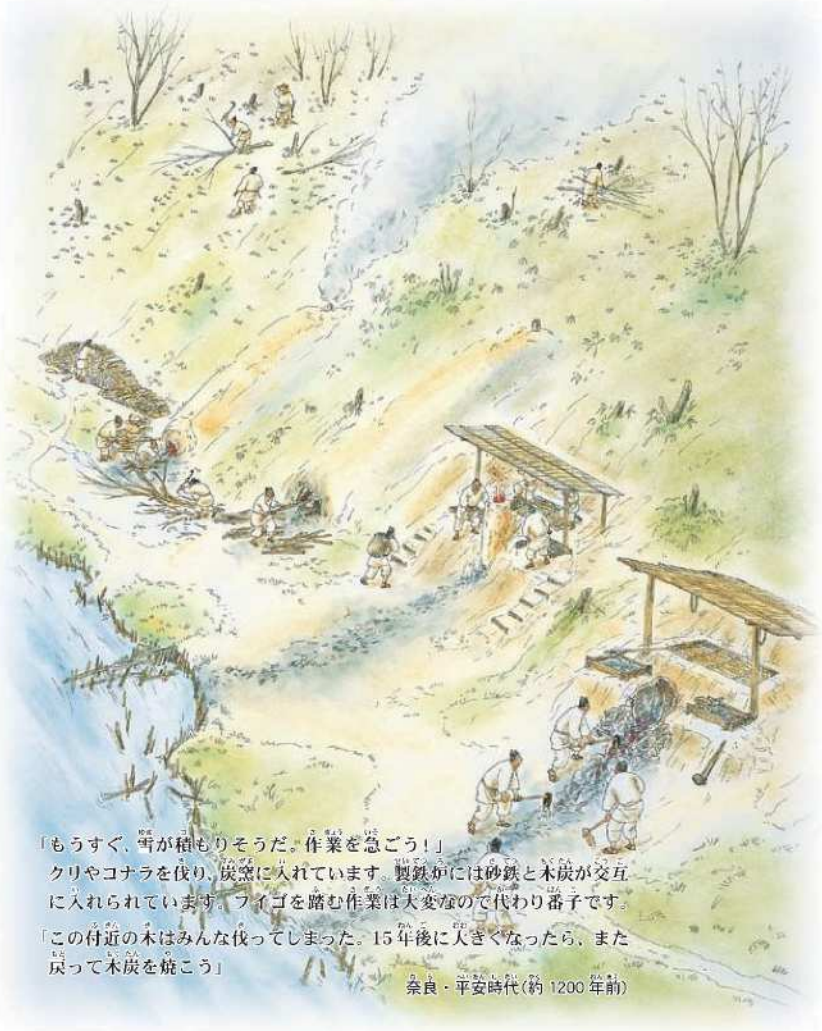
古墳時代前期(約 1600 年前)

蒲原の製鉄基地 ～奈良・平安時代～



越後国蒲原郡金津の官営製鉄基地。山裾では炭窯から煙が何本も立ち登っています。クリやコナラなどの木々は伐られ、木炭の材料になります。鉄の原料である砂鉄を溶かすためにたくさんの木炭が使われました。平野には多くのムラが見えますが、原野の開発には斧や鋤(スコップ)などの鉄の道具はなくてはならないものでした。

奈良・平安時代(約 1200 年前)



「もうすぐ、雪が積もりそうだ。作業を急ごう！」
クリやコナラを伐り、炭窯に入れています。製鉄炉には砂鉄と木炭が交互に入れられています。フイゴを踏む作業は大変なので代わり番子です。

「この付近の木はみんな伐ってしまった。15年後に大きくなったら、また戻って木炭を焼こう」

奈良・平安時代(約 1200 年前)

古津八幡山遺跡の歴史

130000	旧石器時代		市内の最古の石器が残される
	縄文時代	草創期	
		早期	
		前期	
		中期	東側の谷でクリやトチの木の手入れがされる
		後期	北東地区で竪穴住居がつくられる
		晩期	
400	弥生時代	前期	
紀元前		中期	
紀元後 1		後期	丘の上に濠が掘られ、村がつくられる 四角い墓にムラ長が葬られる
270	古墳時代	前期	
		中期	県内最大の蒲原の土墓がつくられる
		後期	
645	飛鳥時代		
710	奈良時代		炭窯で炭が焼かれ、製鉄炉で鉄がつくられる
794	平安時代		
1192	鎌倉時代		

古津八幡山遺跡は旧石器時代から平安時代にかけての遺跡です。当時の風景をイメージしやすいように各時代の様子をイラストにしてみました。
各時代の遠景画は、古津八幡山遺跡の北東上空から南西の日本海方面を望んだ風景です。時代が変わっても、遠くには新潟の象徴である弥彦山・角田山が見えます。
また、各時代の遠景画・近景画は春・夏・秋・冬の様子を描いています。地形の復元には地質学の論文を参考にしました。

史跡公園は古津八幡山遺跡の主な時代である弥生時代のムラの様子と、古墳時代の様子を復元しています。